

人権学習 指導案

1. 題材名 「いじめ」

2. 題材設定の理由

○題材観

今日、いじめは大きな社会問題である。生徒にとって、いじめを受けることは毎日の学校生活が苦痛であり、状況によっては不登校や中途退学の原因になり、最悪の場合は死に至ることもあるきわめて深刻な問題である。学校生活で、いじめることやいじめられることが、どのようなことで発生し、どのような展開になるかを、それぞれの立場に立って考えさせたい。また、その事を人権侵害の問題として考えさせたい。

○指導観

漠然と、いじめは良くないと言っても、生徒にとっては表面的な理解にとどまると思われる。しかも、多くの生徒たちにとっては「いじめは良くないこと」と頭の中で理解できていると思われる。従って、知的理解にとどまらせないための指導内容として、定義、様態、原因を理解し、自分の気持ちを話すことを取り入れたい。具体的に、いじめの定義・いじめの様態・いじめの原因と動機など順を追って取り扱い、いじめに対する理解を深めさせたい。さらに、「いじめられる側」「いじめる側」「それ以外」の立場の気持ちを考えさせることで、複合的にいじめを考えさせたい。また、生徒同士がお互い自分の気持ちを話す場面を設定する。そのために、班を作り、班で討議が深まるように、色つきの付箋紙で自分の意見を書かせる。班で各自の意見をまとめさせながら、意見集約をさせていく。いわゆる KJ 法の手法を用いながら、班で意見をまとめていく作業を通して、相手の考えを理解する、自分の考えを相手に伝えることを学ばせる。このことから、相手を理解する姿勢を学ばせ、いじめについて考えさせる。

3. 目標

いじめをなくしていく意志と実践力をもてるようになる。

- ①ある行為が、いじめかどうかの判断は、いじめを受けた生徒の立場に立って行うものであることを身に付けられるようする。
- ②他者に対する何げない行為を、その人の人権を大切にされた行為であるかどうか、もう一度考えられるようにする。
- ③「いじめは、いじめられる側にも問題がある」という考え方について、問題点を指摘できるようにする。

4. 指導計画・・・単元の配当時間（1年次）1時間

- ①いじめに関する問題点とまとめ。

5. 指導上の留意点

- ①いじめについて、生徒がどの程度理解しているかどうか、その都度確認しながら展開する。
また、いじめについて自分の意見と他人の意見とが対比できるように展開していく。
- ②いじめに対する正しい認識が深められるよう、事実に基づき説明する。
いろいろな立場の違いによるいじめの考え方を探る。

6. 教材 生徒：資料プリント

教師：生徒用資料プリント＋教師用資料プリント

7. 過程

	学習活動・内容	指導上の留意点	教材	配時	形態	評価
導 入	挨拶および出席確認 人権学習の考え方と本時の学習内容を確認する。	出席を確認し、授業の体勢を整えさせる。 いじめとはどのようなことか、数人の生徒に発言させる。 具体例として、無視する・悪口を言う・暴力をふるうなどの言葉を引き出す。		5分	一斉	
展 開	いじめの定義について確認する。 いじめの態様について考える。 班でまとめたものを発表する。 発表から いじめを受けたとき、いじめを見聞したときの対応を確認する。	心理的、物理的、暴力的ないじめに分類して理解させる。 いじめを受けた生徒の立場に立って考えさせる。 具体的に考えさせるために班を編成する。 いじめを受けた生徒にとっては、どれも大変な苦痛であることを認識させる。 具体的に「いじめる立場」・「いじめられる立場」・「観衆の立場」「傍観者の立場」、それぞれの気持ちを考えさせ、班で意見をまとめ発表させる。 まとめた作業を通して、自分の意見を相手に伝えること、相手の意見を受け入れること、相手を理解する姿勢を学習させる。相手を理解させるといふ観点からいじめについて考えさせる。 また、時間があれば「いじめられる側にもいじめの原因がある」との考え方について話し合う。	資料 プリント	5分 15分 15分	一斉 各自 各班	(1) (2) (2) (3)
ま と め	各自で感想をまとめる。	今回の作業を通して、いじめについての考えを整理させる。		10分	各自	(3)
評 価	(1) 人権・差別・いじめについて関心を持ち、その改善(向上)を目指して自主的・積極的・意欲的に取り組もうとしている。【関心・意欲・態度】 (2) いじめ問題の解決に自ら思考を深め、習得した知識を活用して適切に判断し創意工夫をする能力を身に付けている。【思考・判断】 (3) いじめに関する知識を身に付け、いじめをなくすことの必要性や意義(役割)を理解している。【知識・理解】					